

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390600050		
法人名	有限会社 菜花		
事業所名	グループホーム 正木の家		
所在地	名古屋市中区正木二丁目14番18号		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2390600050-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2390600050-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年1月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様のペースを大切に、自分らしく生活できるように支援しています。職員と入居者様の距離も近く、リビングは毎日笑いが絶えません。入居者様も職員も楽しい事が大好きな為、パチンコイベントや夏祭り、クリスマスの仮装カラオケ大会等、ご家族も含めみんなで楽しめる行事を毎年企画しています。地域の行事にも積極的に参加し、小学校の運動会の見学や盆踊り、近隣の神社のお祭り等に入居者様と一緒に参加しています。今年の9月からは施設1階でカラオケサロンを開始し、地域の方々が入居者様とが交流を持てる場が増えてきています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームには利用者が日中の時間を過ごしているリビング以外にも、ホーム建物の1階に交流スペースが確保されてあることがホームの特徴でもある。交流スペースを地域の方に活用してもらう取り組みや利用者も参加した行事が行われており、多くの方に交流スペースを活用してもらう取り組みが行われている。地域の方との交流については、地域の消防団の方との交流が行われていることで、非常災害時に備えた助言等を得る機会にもつながっている。1ユニットのホームでもあるため、職員間で利用者に関する日常的な情報交換が行われており、一人ひとりに合わせた支援につなげる取り組みが行われている。利用者により、身体状態が重い方も生活しており、職員間での検診を通じて、その方に合わせた食事形態の提供や職員複数での入浴介助等の取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	エレベーター横、事務所に提示し、職員全員が確認できるようにしている。	ホーム名である「まさきのいえ」の言葉から理念をつくっており、利用者、家族にも親しみやすい工夫が行われている。理念を建物1階のエレベーター前に掲げており、職員が日常的に目に入るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に参加し、地域の行事に積極的に参加している。週1回のカラオケサロンもスタートし、地域の方々との交流も増えてきている。	地域の方との交流の機会をつくりながら、地域の祭事等にホームから参加する取り組みが行われている。また、建物1階を交流スペースとしていることで、サロンやカフェの実施を通じて、地域の方に活用してもらう取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症専門部会のメンバーに入り、情報提供をしたり、いきいき支援センターの認知症カフェでの場所の提供も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行事の報告や、ヒヤリハット報告などをし、アドバイスを頂いている。その都度、議事録を作成し、職員への周知も勤めている。	会議には、消防団長の方が地域の方として参加しており、災害対策等、ホーム運営への反映につながっている。また、近隣の喫茶店の方も参加しており、ホームからの報告を通じて、地域の方との交流につながっている。	家族については、全員への案内や会議の内容を報告する等の取り組みが行われているが、現状、出席が得られないことが多い。ホームからの継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	認知症専門部会、中区介護保険事業者連絡会、グループホーム連絡協議会のメンバーとして、会議、勉強会に参加し市町村や他事業所との連携に努めている。	区内の介護事業所が集まる連絡会の際には、ホームからも参加しており、情報交換につながっている他にも、関連事業所を通じた情報交換も行われている。また、地域包括支援センターと連携したカフェの取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	帰宅願望のある入居者様があり、出来る限り外出するように努めてはいるが、玄関の施錠はせざる負えない。	ホーム建物のエレベーターが自由に動かすことができるため、1階の玄関については施錠が行われているが、様子を見ながら外に出る等の対応が行われている。また、法人で研修会の取り組みが行われており、職員の振り返りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し、職員全員が閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	3名の入居者様が後見人制度を利用しており、職員も認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書、重要事項説明書を十分に説明し納得頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員はご家族との関係を大切に、訪問時等、話しやすい環境づくりに努め、要望を聴くようにしている。聞いた内容は管理者、常勤職員へ報告し運営に反映できるよう努めている。	ホームで行われている行事の際には、家族の参加が得られており、交流の機会をつくっている。家族との面談の機会をつくりながら、要望等の把握に取り組んでいる。また、運営推進会議の資料の送付の他にも、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度のミーティング、カンファレンスを行い、職員の意見や提案を反映させている。	毎月の職員会議が行われており、職員からの意見等を運営に反映するよう取り組んでいる。1ユニットのホームでもあるため、日常的な意見交換が行われている。また、法人代表者による個別面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来る限り残業、休日出勤のないようシフトの組み方を工夫している。 年に1回、事業所代表、総務と話す機会を設け、個々の努力や実績を評価するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年4回、1階で事業所の研修を行っている。 毎月他事業所の研修会に参加したり、研修案内を全職員に提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業所交流会や研修に参加し他事業所と交流を持てるよう取り組んでいる。 入居者様と一緒に他事業所のお祭りに参加したり、招待したりと事業所同士の交流も深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前にご家族、友人、本人から生活歴、考え、不安な点等を聞き、安心して暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学来所や契約時にご家族、本人に不安や要望を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、家族の意向をしっかりと把握した状態で、その時々にあった支援を提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	カンファレンス等で個々が今出来る事を職員が把握し、共同で行えるようにしている。毎日のあいさつや感謝の気持ちを言葉で表し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に寄り添い、意向を聞きながら、良い関係が築けるようにしている。また、ご家族が出来る事は協力してもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お孫さんとの手紙の交換や、家族との外出、友人との電話など、馴染みの関係が途切れない様支援している。	利用者により、入居前からの関係の方との交流を継続しており、ホームに訪問して交流の機会がつけられている。また、家族との外出の機会がつけられており、利用者により、家族との食事や買い物等の他にも、親族の結婚式等に参加する機会も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆様に楽しめるレクリエーションを行ったり、入居者様同士が会話しやすいように席を移動したり工夫している、トラブルになりそうな時は、職員が仲裁、見守りするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた方のご家族をイベントに招待したり、近隣のお店の人等から現状を聞いたりし、関係が継続できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中での言動から意向を把握できるよう努めている。収集した情報をカンファレンスで意見交換するようにしている。	3名の常勤職員で利用者を担当しており、利用者に関する意向等の把握に取り組んでいる。日常的な申し送り等を通じて職員間で情報の共有につなげている。また、カンファレンスの際には、毎月1名を検討しており、利用者の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報や日々の言動から得た情報からご本人の意向を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりの中から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1回のカンファレンスで入居者様のケアの内容を検討し、介護計画に反映している。	介護計画の見直しは1年に1回であるが、毎月のカンファレンスで利用者に関する検討が行われており、見直しにつなげている。また、1ユニットのホームでもあるため、利用者の支援内容に関する日常的な職員間での意見交換も行われている。	現状、定期的なモニタリングの記録を残していないこともあるため、毎月の利用者別の便りを活用する等、ホームでの新たな取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録を介護計画に記録し、朝、夕と申し送りを行っている。連絡ノートを使用し、気づき、対応を全職員が共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族や職員で相談し、その都度、その状況にあったケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣神社のお祭りのカラオケ大会に参加したり、地域の清掃に参加したりと、各々が得意な事で活躍できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科医月2回、歯科医週2回の往診を受けている。必要な方は週3回のマッサージも取り入れている。	協力医による定期的な訪問診療が行われており、利用者に関する健康チェックや受診支援の対応も行われている。また、看護職員が週1回訪問しており、利用者に関する健康チェックや医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の様子を看護師に報告し、体調変化時には指示を仰ぐようにしている。 内科医と情報交換シートを使い、連携にも努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、看護師から状況を聞くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に意向確認を行っている。日常的な医療行為が必要となった場合は、ご家族と話し合い、医療機関等への入院、他施設への転所を提案している。	利用者の看取りに向けた取り組みが行われており、協力医との連携した対応が行われている。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いを行いながら、ホームでの看取り支援が行われている。また、法人での研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルを作成し、すぐに閲覧できる場所に置いている。看護師による応急手当の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防団長に協力頂き、年4回の避難訓練を行っている。また、1階のフロアを福祉避難所の指定を受ける事ができた。	年4回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。訓練の際には、地域の消防団長の方の協力が得られており、協力関係がつけられている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	ホーム建物の構造上、職員間での継続した訓練に期待したい。また、今年度より、福祉避難所としての取り組みが始められているため、今後に向けたホームの新たな取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々の関わりの中での言動に注意したり、感謝の気持ちを言葉で表すようにし、プライバシーを損なわないように努めている。	日常的に職員間で言葉遣い等の対応を意識する等、職員による対応等で気になった際には、管理者より注意喚起等の取り組みも行われている。利用者に対する対応については、外部講師を招いた研修の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の関わりの中で、自己決定ができるような意図的な言葉かけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、食事、入浴、就寝と大まかな時間は決まっているが、その時々希望に合わせて臨機応変に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り、ご自分で服を選んでもらうようにしたり、月1回の訪問美容にてカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	形状や食器を工夫し、出来る限りご自分で食べられるよう支援している。片づけは職員と共同で行っている。 日曜日にはおやつ作りを行っている。	食材業者のメニューに基づき調理が行われており、利用者の身体状態に合わせたミキサーやトロミ等の食事形態の対応も行われている。定期的なおやつ作りや行事食の取り組みも行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、食事量を記録し、必要時には水分量も記録するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。 必要な際は歯科往診で口腔ケアをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を確認しながら、出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	利用者一人ひとりに合わせた排泄状態のチェックが行われており、チェック項目も利用者により異なっており、職員間で排泄支援の共有につなげている。利用者により、昼と夜で対応を変えたり、トイレでの排泄を継続できるような取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、牛乳の提供、服薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本は隔日が入浴するようになっているが、拒否がある際は無理強いないようにしている。夜も希望があれば入浴できるようにしている。	入浴については、1日おきの週3回行われており、時間も午後の時間から意向に合わせた夜間の時間にも対応している。重度の方についても浴槽で入浴してもらうように、職員複数での対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、お昼寝される方はしていただき、夜間は出来る限り本人に任せ、気分や生活習慣等をふまえて入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の説明書を全職員が閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の片づけ、掃除、洗濯、編み物、パズル、歌等、個々が得意としているものを活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望にそって、散歩や喫茶外出をするようにしている。朝食の食材やお米等の買い物に職員と一緒にいくようにしている。	職員の勤務状況にも合わせながら、近隣の公園や神社等への散歩や買い物等で外出する取り組みが行われている。また、区内の他の介護事業所との交流に出かけたり、季節に合わせた外出行事等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一定額を事務所で管理するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お孫さんとの手紙のやりとりや、兄弟からの電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先には季節の花を植え、入り口には季節にあった飾りを入居者様と作るようにしている。 居	ホームは1ユニットであるが、利用者が過ごすことができるフロアーが複数あり、利用者の希望や気分等に合わせて、過ごす場所の配慮が行われている。リビングの一角には畳コーナーが設けられており、利用者が日中の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに畳の空間を作り、お昼寝ができるようにしたり、入居者様同士が会話できるように席を移動したり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある物や仏壇などの持ち込みは自由で、必要ならばご家族と相談し持ってきてもらっている。	日中を過ごしているリビングと夜間を過ごす居室が別のフロアーであるため、利用者により、静かな居室で過ごすこともできる。利用者の意向等に合わせた家具類や好みの物の持ち込みが行われており、個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	新しく手すりを設置したり、つたい歩きができるよう家具を移動したりと、個々の出来る事を活かした生活が送れるよう工夫している。		